

藝文だより

第35号

平成30年 3月15日
村山市芸術文化協議会
題字／齋藤 湖舟

第53回村山市芸術祭シンボル事業

津軽三味線真正流 正徳会 三十周年記念発表会



第五十三回村山市芸術祭シンボル事業「津軽三味線真正流 正徳会三十周年記念発表会」が十月二十九日、市民会館大ホールを会場に開催されました。

この公演は、正徳会創設三十周年を記念し開催したもので、芸術祭シンボル事業として、地元の正徳会の会員のみなならず、全国からゲストを迎えての公演となりました。

発表会は百二十人もの会員による「津軽三味線じよんがら節」の大合奏で幕を開けました。津軽三

味線の力強い音色の重なりが会場中に響き、詰めかけた観客を圧倒しました。

第一部はオープニング。正徳会を中心に村山の各地域の踊り手や、杉島諏訪太鼓保存会の子供太鼓、名星ば



練習の成果を発揮した子供太鼓



会場が一体となったフィナーレ

あちゃん太鼓も登場し日頃の練習の成果を披露しました。第二部は師匠と手合わせと題し宗家から名取の会員による見事な演奏が行われました。第三部はゴールデンショー。数々の歌い手がゲストとして出演し、素晴らしいステージとなりました。正徳会の星川英子さんは自身の曲である「そば音頭」を歌い上げ、最後は歌手全員による「花笠音頭」がフィナーレを飾りました。

当日はあいにくの雨でしたが、会場は立ち見が出るほどの超満員で、大ホールいっぱいに詰めかけた観客の皆さんは素晴らしい演奏にじっくり聞きっていました。

わが村山市芸術祭

これにあり



村山市芸術文化協議会

会長 軽部 栄子

稲田の収穫も終わり、四方の山々が薄もみじになりはじめる頃、村山市では毎年、芸術祭の幕が開かれます。十六団体、六百余名が一年間の修練の結果の発表です。

書、絵画、いけ花、写真などの展示作品。舞台では、どうしたら覚えられるのだろうと思ってしまう、長くむずかしい詩の謡曲や、詩吟、美しい音色が皆で心の奥にひびくお琴、尺八、大正琴、そして合唱団の美しいハーモニー。観る人を魅了して止まない美しい日本舞踊、おなかを抱えて笑いながらも何故か切ない赤ひげの演劇、小気味の良い股旅舞踊、パワー全開のスキップライブ……そして市民会館和室で、静かに抹茶を一品。

毎年、芸術祭には、シンボ

ル事業があります。今回は県民芸術祭参加でもある「正徳会三十周年記念発表会」でした。第一幕が上がった時の百余名の津軽三味線は素晴らしいものでした。正に圧巻という他はありません。民謡も又私達の日々の暮らしから生まれた調べであり、そこにも皆の万感の拍手がありました。

村山市が自慢出来る大きな一つ、村山市芸術祭と私達芸文協は自負しております。諸先輩のご努力と会員の力でこの芸術祭も五十三回目になりました。いつの時代も、芸術、文化には心に残る安らぎがあります。これからも会員皆様の意識と研鑽で、感動の村山市芸術祭が継がれます事を願っております。

林家たい平講演会 開催

「林家たい平講演会」が七月十五日、市民会館大ホールを会場に開催されました。林家たい平さんは「笑顔のもとに笑顔が集まる」と題し、笑点メンバーとのやりとりや、噺家になるまでの経緯、そして二十四時間馬拉ソンのランナーとしての体験等を語りました。

たい平さんは大学時代に噺家になることを志し、宮城の老人ホームでボランティアでお話をされた経験がありました。拙い落語にも大いに喜ばれ、喜んでからおうと行ったり、つもりが励まされた経験から、絶対落語家になると決意したそうです。

新人時代は落語よりも先輩方のお茶を用意するのが仕事の毎日にならぬやうに、それも実践ととらえ、美味しいお茶の淹れ方や人によつての好みを分析するうちに仕事を楽しくなったと話しました。さらには先輩からも一目置かれるようになった経験をもとに、前向きに楽しんで取り組むことの大切さを伝えていきました。

東日本大震災の後、宮城を訪れた際の交流から、笑いというのには励みになるのだということや、ガスなどのライフラインが復旧した際の歓声を聞き、どんな仕事にもその先に喜びや笑顔があるのだと実感された経験を語りました。

二十四時間馬拉ソンのランナーとして走った時には、声援に励まされ、走りきることができたと言いました。今でも馬拉ソンを続けており、復興後の馬拉ソン大会へも出場しているそうです。

来場した皆さんはたい平さんの見事な語り口に引き込まれ、笑いを織り交ぜながらのお話に熱心に聞き入っていました。物事の捉え方や笑いの大切さなどのお話にうなずきつつ、終始笑いに包まれた楽しい講演となりました。



最上川美術館 須藤正義油絵展を開催

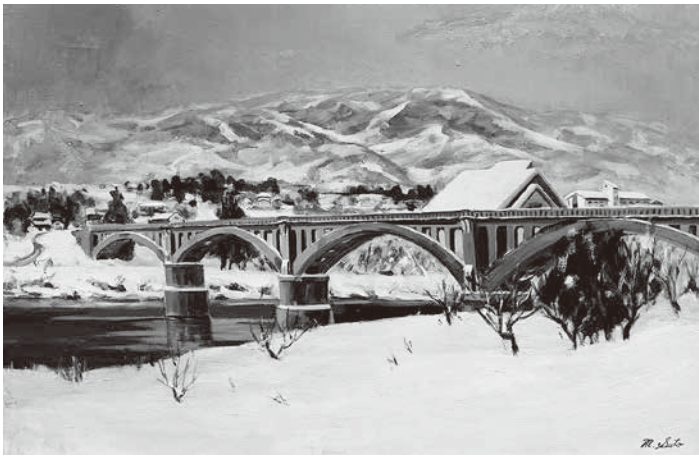
平成二十八年九月二十九日から十月三十一日まで、村山

市芸術文化協議会長の退任を期に自身初となる個展「なつかしの碁点橋に魅せられて」須藤正義油絵展を最上川美術館（真下慶治記念館）において開催しました。

これは、村山市及び最上川美術館のご厚意と多くの方々にご協力をいただき、念願の個展を開催することができま

した。関係各位に対し心より感謝申し上げます。

私は子供のころから絵を描くのが好きで中学で美術部に入り、近くの田園風景や葉山・最上川などの風景を楽しんで写生をしていました。とりわけアーチ式の碁点橋は私のライフワークとして長年取り組んできました。昭和五十二年「初夏月山」が県美展で初入選、これまで



特に油絵の指導を受けたことがなく、本格的に習いたいと思っていたところ、村山市が細梅久彌画伯（名誉市民）を講師に市民文化油絵講座開設すること、早速申込して以来二十年余りご指導をいただき基礎を学びました。その後は嘉規雅之氏を講師にお願いし、現在も油絵教室として楽しく活動を続けています。

平成十四年、具象を礎とする洋画団体主催の「示現会展」に初入選、以降連続出品して平成二十七年会員に推挙されました。県美展には二十

六回入選してはいるものの入賞経験のない私が、真下慶治画伯の作品と同館で展示できるといふことはおこがましい限りですが大変光栄に思ってお引き受けしました。

作品の選定にあたっては、できるだけ最上川にこだわりの昭和五十年代〜平成十年代に制作した私のライフワークとして長く取り組んできたアーチ式の碁点橋や冬の最上川風景を中心に、近年制作の月山山寺・白い灯台・リング等を描いた小品に加え、県美展・示現会展へ出品した大作合わ

せて十五点を展示しました。会期が一カ月余と長期のため常駐することはできませんでしたが期間中、一千名を超える方々においていただきました。これには大淀いもっこ祭りや薔薇生花展など美術館独自のイベントへのご来場に加えアートクラブ友の会会員のお力添えがあつてのことと心より感謝申し上げます。

今回いただいたご指導を胸に、自然を師と仰ぎ今後の作品づくりに精進してまいります。（村山市美術連盟 須藤正義）

オランダ・ドイツ調査団報告展 徳内・シーボルト写真展

最上徳内記念館とシーボルトハウス（オランダ王国）の友好博物館協定締結を契機に、村山市は昨年十月、オランダ・ドイツに調査団を派遣しました。

シーボルトハウスのほかにも博物館等を訪問し、その際の写真を「オランダ・ドイツ調査団報告展」として、十二月十五日から二月六日まで展示しました。

徳内がシーボルトに貸し与える名目で渡した書籍、樹木

標本、地図、アイヌ民族道具等、オランダ・ドイツに残る徳内の資料の数々が写真で紹介されました。

十二月十七日にはクアハウス基点にて、調査報告・講演会が行われました。特別講演

ではシーボルト研究の世界的権威であり、ボン大学名誉教授のヨーゼフ・クライナー氏を迎え、「徳内とシーボルト」と題してご講演いただきました。シーボルトが徳内を「旧友」と呼び共に研究を進



ヨーゼフ・クライナー名誉教授による特別講演

めていたこと、渡された資料が現在も整理され残されていること等が語られました。講演会は席が足りなくなるほどの大盛況で、長時間の講演にも皆さん興味深く聞き

（市教育委員会 鈴木正人）

第53回村山市芸術祭

第五十三回村山市芸術祭は、十月二十九日の「津軽三味線真正流 正徳会二十周年記念発表会」を皮切りに、十二月十日の「SKIP スーパーライブ」までの一か月、村山市民会館を主会場に開催されました。趣向をこらしたステージや展示に訪れたお客様は、芸術の秋を満喫していました。



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団秋のコンサート



和のハーモニーを楽しんだ三曲公演



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



凜とした歌声が響いた吟詠大会



個性の光る書の色紙展・子ども書の色紙展



笑いがあふれた赤ひげ「再、恋、夜。」公演



幽玄の世界 謡曲公演



労作が並んだ人形・押絵展



秀逸な作品が展示された書道展



艶やかな日舞公演



聴衆を魅了した『村山混声合唱団フェブリエ』



温かい作品が並んだ手芸作品展



基点焼陶芸教室作品展示会



満員の股旅舞踊チャリティーショー



親父パワー全開！SKIPスーパーライブ



厚岸との合同写真展

人生を彩る「遊び」

杉島諏訪太鼓保存会 石澤 啓 至

気楽に一服を

茶道連盟 小 関 宗 節

私達杉島諏訪太鼓保存会は、結成三十六年目を迎え、村山市内だけに留まらず、県内外に活動の場を拡げています。

今年度の芸術祭では、シンボル事業への子供太鼓の出演、舞台、受付、会場スタッフとして参加をさせて頂きました。演者として舞台に立つ時にはなかなか気付く事の出来ない、協力して頂いたスタッフの方々、わざわざ観に来て頂いた観客の方々への配慮の大切さを知る、とても良い機会となりました。今後の自分達の舞台にも、活かして行きたい



民族舞踊団「グルン」と交流

と思います。

ロシア、ヤクーツク市より、民族舞踊団「グルン」のメンバーと、北東連邦大学で日本語を学ぶ学生達が村山市を訪問した際には、農村文化保存伝承館、山形市内のホテルと、二度の交流会を行いました。伝承館で初めて彼等の舞台を観させて頂きましたが、表現力の豊かさや力強さに驚かされました。自然の景色や動物達、そこで生きる人達の情景が浮かんで来る様な素晴らしい舞台でした。お互いの太鼓と踊りの体験をし、一緒に食事しながら多くの会話を交わしました。それぞれの文化を知る事が出来、より深い親交を持ってたと思います。

「太鼓で遊べ」よく私達の会長から言われる言葉です。自分も遊びのつもりで始めた事でしたが、太鼓を続けていたから出会えた人、経験出来た事が、人生に彩りを与えてくれた様に感じます。これからも様々な芸術、文化に触れる事で感性を磨き、より多くの人の心に響く様な太鼓を打ち続けて行きたいと思います。



にぎわった芸術祭お茶会

音のつれづれ

大正琴連盟 井澤 主子

芸文茶会の当日、文化の日の祝日は、朝から明るい陽がさし込んでいました。水屋・本席の準備も整い、一席目のお客様を静かに待ちました。ゆっくりとお茶をめし上がった。必要だからです。いつも思うことは、気楽にお抹茶を飲みにいこうかなというお客様がふえていただきたいということです。

そんな中、市役所職員の方の案内で、市と友好都市になっているカナダのバリー市より、市民訪問団としていらした四名のお客様が入っていただきました。席中が二気に明るく楽しい雰囲気になり、ほっといたしました。「とてもおもしろい」と感想をいただきました。正座の大変さがわかるので、気楽な姿勢でめし上がっていただき感謝申し上げます。市茶道連盟の茶会を主催する私達が、もっと工夫配慮し今回以上に参加者がふえるよう頑張らなければと思います。

或る日の教室。邦楽の長唄「うづまき長唄」蛙かきを習いました。二曲共、鳴き音色が主で、猿はキツキツ、蛙はクワクワ……。絃に当てるピツクの位置、絃の押えの奏法で鳴き声表現できるのです。又、ピツクを弓に替えて弾く弓弾きもあり、大正琴の奥の深さを学びました。

ひと昔前に想いを馳せました。五月晴れのもと、村山盆地にも緑の美田が広がり、日暮と共に、どこからともなく



美しいメロディを披露

ズムでしょうか、途絶えつつある事は寂しい事です。私達は少人数ながら、皆様方のご支援に支えられ、今年も楽しく演奏会を終える事が出来ました。かけがえのない文化を、次の時代に伝えるべく会員同努力してまいります。

村山市芸術祭に華を

村山市華道連盟 大沼 美智子

華道連盟は、五つの流派のメンバーで構成しています。華道栖草流・草月流・池坊・龍生派・小原流のそれぞれが日頃のお稽古の成果を生け花展で発表しています。

市民会館正面玄関には、村山市芸術祭の開幕に合わせて毎年、大作が飾られ、皆様をお迎えしております。

村山市芸術祭いけ花展では、古くから伝わる生け花の形や現代の生活様式にマッチした生け花の形、自然の景観を花

器の中に表現したものと、創造性豊かな作品が会場いっぱい飾られました。

また、十月には、村山市観光の名所、東沢公園のバラを使って最上川美術館「東沢バラの香りいっぱいの花展」にも出展しております。

さわやかな秋の季節、どちらの生け花展も、たくさんのお客様から観ていただき、生け花の魅力を感じ、興味を持

ち、生け花を嗜む人が増えてくれることを期待します。



芸術祭の開幕を飾った生け花
(平成29年度担当 華道栖草流)

想い出の人

美術連盟 原田 一裕

市美術連盟の初代会長細梅久彌先生が亡くなって十四年になる。先生は「初市」作家としてよく知られ、数々の受賞や榮譽に浴してきた。また、教育者として高校・短大・大学で教鞭をとられ、油絵教室の指導も長く務められた。

初めて対面したのは昭和四十八年冬、馬場宿細梅家の門をたたいた事に始まる。

都落ちした私が故郷にもどり絵を志す決意の行動であった。先生は旧家の当主らしく泰然自若としている印象だった。そして、私が示現会展に

初出品する事を大変喜んでくれた。同時に白風会（現示現会山形支部）、新光会（現市美術連盟）への入会も勧めてくれた。

入会後は事あるごとに「作品には哲学を持って」と指導を受けたが、今もってその教えに苦闘している。

海外にもよく出かけられた。あまり人の行かない辺境の地が多く、取材は手早くスケッチブック数冊にもなった。

その折、入手した民族衣装

のマントを身にまとい楯岡街を颯爽と自転車で乗り回る姿は、怪人のごときであった。

また、毎年正月に山形のデパートで個展を開き、初市作品の他、取材した世界各地の作品も披露した。一家の主人が海外へ長期不在、留守を預かる家族の心労は如何ばかりであったろうか。

大きな愛情に包まれて自由にはばたい先生は幸せ者だったに違いない。

先生は酒をこよなく愛した。山形で会議の時などは、度々お伴してごちそうになった。帰りの列車では、微酔い気分

で、よく車内の人々をスケッチしていたが、驚きの業である。残された作品は、描きかけの百号一点しかないという。私達は県内の施設などで展示された作品を鑑賞できるが、さらに、未公開の作品も是非拝見したいものだ。

先生は、まさしく戦後の草創期から美術界を牽引してきた。その功績はいまだに大きく、尊敬すべき人物である。

芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成29年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月27日市民会館)

【感謝状】

井澤 セイ(西郷・社会音楽連盟)
土岐 盛子(山形市・吟友会)

【栄光章】

|| 第七十回示現会展 入選
|| 第七十二回山形県総合美術展 奨励賞
|| 第三十四回読売書法展 読売奨励賞
|| 第三十四回読売書法展 入選
|| 第三十四回読売書法展 読売奨励賞

【功労章】

元木 朗子(東根市)
|| 元楯岡小学校合唱部顧問
須藤 正義(西郷・美術連盟)

佐藤勝さん 読売書法展「読売奨励賞」を受賞



第三十四 回読売書法展で、佐藤勝さん（楯岡）が奨励賞を受賞されました。読売展は、日本最大級の書展で今回は二二五四九点の応募があり、その中から二二二一点奨励賞が選出されました。受賞作は、*篆刻で白文の金文体を使用

した七・五cm角の作品です。金文特有の象形的にふっくらした線質と文字の大小粗密を狙った構成で、線質と筆意に悩みながら金文臨書と創作を一年間繰り返し返して完成させた力作で、古典の趣を出しながらも伸びのある線が評価され受賞となりました。

佐藤さんは、高校書道科教員の傍ら創作活動に励んでお

注目！ 俳句 大場ひろみさん

最近、テレビ番組『プレバト』を見て、俳句に関心を持たれる方が多くなつたと思います。私が俳句を始めたのも実はテレビが縁なのです。三十数年前NHKのテレビ・ラジオのモニターをした時、局から割り当てられたテレビ番組の中に『俳句入門』がありました。元より詩歌は好きでしたが、義務で番組を見ているうち俳句の素晴らしさを知り、それではとNHKテレビに投句を始めたのです。

ほどなく村山市主催・俳句講座が始まり受講して、俳句の基礎知識を学びました。おかげで自分の感性だけに頼ることなく俳句が詠めるようになりました。

温かい心で自然、身ほとりを見つめ、楽しい時も、辛い時も俳句を詠んでいけば、物事を客観的に見られ、産土の素晴らしさにも気づくことができます。俳句を沢山詠んで、沢山捨てて、そこで心に適う句がひとつ遺れば幸いです。次の句が私に遺りました。

「月涼し母の命の番をして」
(俳人協会俳句大賞受賞)



り、読売展の他、日展、謙慎書道会展、県民ふれあい書道展等で大活躍中で、現在三十歳、これから書道会を牽引する若手の旗手として大きな期待をされております。

(村山市書道会 青柳孝雄)

*木、石などの印材に印刀で文字を彫ること。印に刻す文字に主に篆書が使われることから篆刻という。



プロフィール
山形市生まれ 村山市在住
「馬酔木」同人「花鶏」同人
俳人協会会員
「馬酔木創刊九十周年記念コンクール努力賞」受賞 (平成二十三年)
「第二十四回俳人協会俳句大賞」受賞 (平成二十九年)

村山市華道連盟会長
草月流山形地区長
村山朗読会代表
村山市社会教育委員

平成二十九年 村山市芸文協のつぎ	
4・18	会計監査委
4・24	三役幹事会・理事会
5・20	山形交響楽団 ユア
	タウンコンサート村
	山演奏会 (後援)
5・28	県芸文協会総会
6・20	総会
7・20	三役幹事会
7・28	理事会
10・6	芸術文化功労者選考委員会
10・18	県美展子ども県展村山巡回展 (後援)
10・27	村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式
10・29	シンボル事業「津軽三味線貢正流 正徳会」
12・21	三役幹事会
12・21	市芸術祭反省会
1・16	芸文だより編集委員会
1・31	北村山芸文協懇談会 (尾花沢市)

あとがき

編集会議が始まったのは、一面銀世界の時期だった。何もかもが白色で塗りつぶされリセットされたかの様だ。

さて、この色から一年を私は、どんな色にしようかと、試行錯誤中！今だにわからない。ただひとつだけ分かっている事がある。それは健康であると言う事である。健全な体でなければ活動も思考も鈍る。そこからは良い物は出来ない。六十半ばにもなると思うように考えてしまう。

あせらず一歩一歩自分の今出来る事を……。

各人が創り出すカラーは、キラキラ輝くものであってほしいものです。

(編集委員長 菅井 一之)

芸文だより編集委員

- 菅井 一之 (村山市美術連盟)
- 矢萩 幸江 (村山市茶道連盟)
- 大沼 美智子 (村山市華道連盟)
- 結城 うめ子 (村山市大正琴連盟)
- 石澤 啓至 (杉島諏訪太鼓保存会)
- 堀 澄雄 (村山フォトクラブ)